



タック基地

ーバーまでひとつ飛び、そこから国内線  
でカナディアン・ロッキーをこえると、  
そこが石油の町として有名なカルガリー  
である。東京から通算約十時間の飛行距  
離、冬は摂氏零下三十度と旭川並みの寒  
さであるが、夏は正に快適そのもので、  
冬の厳しさをしのぶべくもない。

わが国が参加したプロジェクトは、カ  
ナダの北側、北極海の海域に属するいわ  
ゆるポーツフォート海での探鉱・開発プロ  
ジェクトである。四億ドルの探鉱ローン  
をドーム社に供与し、さらに開発決定の  
場合には、数十億ドルに上る資金貸与を  
行ない、これらを原油で返済してもらっ  
るとともに、参加比率に応じた原油の買取  
権を有することになっている。

事業の遂行上、何にもまして現場を視

察することが必要であり、北極石油では、  
七月十五日、第一回現地視察を行った。

早朝六時半、カルガリーのホテルを出発。  
現場の気温は十度前後と聞いていたので  
各自早春のゴルフにでかける身仕度であ  
る。それにツンドラがとけた泥土対策と  
して、長靴の用意が必須。カルガリー空

港から飛び立ったドーム社の十二人乗り  
専用ジェットは、三時間半の快適な飛行  
の後、北緯六十九度のイヌビツク空港に  
着陸する。この空港は一般旅客用の空港  
である。管制塔と小さな空港ビルがある  
のみで、まわりに街らしいものは見当らな  
い。ここから更に双発機に乗り、約三十  
分で開発前進基地のあるトゥクトヤクト

ウツク(通称タック)に到着する。木一本  
ない極北のツンドラ地帯、目の前に薄鉛  
色の北極海が広がる。予告されていたよう  
に、一面がぬかっている。それでも短い  
夏を精一杯生きようとしているかのよう  
に草が生え、巨大なヤブ蚊がとんでいる。

ドーム社の施設は事務所兼居住区の一  
階建てプレハブビル、倉庫と露天の置場  
からなる資機材区域、港湾設備の三つに  
大別される。夏の作業時間には、ここに  
約千六百人の人々が働いているという。  
資機材置場には探鉱に必要なスティール  
パイプ、掘削用ビット、防噴装置、セメ  
ント、小さな工具、手袋と、実に各種  
多様な物品のストックがあり、その総額  
は約五千万ドルという話であった。中に  
わが国鉄鋼メーカーの名前が刷り込まれ  
たパイプもあった。

今後約十年間にわたって、この海域に投

## 極北の鉱山

一年の大半を氷に閉ざされ、船が通  
航できるのはわずか一か月余り、長く  
ても三か月間。資源開発は、そういう  
極端に気候の厳しい地域でも行われて  
いる。ここに紹介する二つの鉱山がそ  
れである。

ひとつは、北極点から約千五百キロ  
南、リトル・コーンワリス島の北西部  
にあるボラリス鉛・亜鉛鉱山。ほぼ一  
年中凍りついたツンドラ地帯だが、高  
品位の鉛・亜鉛鉱が二千五百万トンも  
埋蔵されていると見られ、コミンコ社  
(バンクーバー)の子会社アービツク  
鉱山が開発に乗り出した。

アービツク社では、現在、従業員  
宿舎の建設を進めている。建設要員を  
厳しい寒さから守るため、まずレール  
の上に体育館大のシェル(覆い)を作  
り、それを順次移動しながらその内部  
で工事を行うようにしている。宿舎は  
二百四十人用で、食堂、娯楽室、スポ  
ーツ・センター、プールなども備える  
という。宿舎の完成後は、シェルは体  
育館として利用される。

選鉱機、発電所、倉庫、着替え室、  
事務所などからなる鉱山のプラントは、  
フットボール競技場ぐらいの大きさの

平底船で、現場まで輸送される。この  
平底船は現場に固定され、そのままプ  
ラントの基礎になる。

アービツク社では、ボラリス鉱山  
の操業を来年早々開始し、年間およそ  
二十万トンの鉛・亜鉛精鉱を産出する  
計画である。搬出については、カナダ  
のカナークティック・シッピング社と  
交渉している。

もうひとつはバフィン島のポータ  
ン半島、ストラスコーナ入江の南岸にあ  
るナニシビツク鉱山。年間の平均気温  
が零下十四度前後、最低記録は零下五  
十三度(一九七九年二月)、年間の雨  
量がわずか十三センチ、永久凍土の厚  
さ約五百メートルというこの鉱山で産  
出が始まったのは一九七六年十月。一  
九七九年には、亜鉛精鉱七万六千トン  
(純度五七%)、鉛精鉱約八千トン(同  
六三%)が生産された。

ナニシビツクの人口は三百五十人。  
その一五%はイヌイット(エスキモー)、  
残りはニューファンドランド、ケベッ  
ク、オンタリオ出身だ。子供も百人ほ  
どいる。

町には小学校や診療所をはじめ、警  
察、消防署、郵便局、市民娯楽センタ  
ー、教会もあり、一般の町とあまり変  
わらない。通信衛星アンテナを利用し  
て、外部との通信やテレビ番組の受信  
も可能。空港も整備され、一か月に平  
均四十機が離着陸する。